

公益財団法人日本陸上競技連盟（JAAF）と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）は、2014年6月6日～8日に福島県で開催された「第98回日本陸上競技選手権大会」にて、スポーツのコア・バリューやスポーツの価値であるフェアな精神の重要性などについてのメッセージを発信するプレイトゥルー・アウトリーチプログラムを展開しました。

このプログラムは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、また2020年以降にもレガシーとしてわが国のクリーンなスポーツ環境、スポーツの価値を国内外に積極的にアピールしていく活動の一環として、JAAFとJADAが共同して実施したものです。

プレイトゥルー・アウトリーチプログラムでは、JADAアスリート委員の室伏由佳さんが特設のブースで大会に参加するアスリートに対して「トップアスリートとしてフェアに競うことの大切さ、スポーツの価値について考えることの大切さ」などについて広く語りかけました。また、多くのアスリートがブースに立ち寄り、アンチ・ドーピング活動を通してスポーツの価値について考えるきっかけを得ました。

また、競技場ではJADAの「真のチャンピオン」をテーマとしたDVDを放映し、プレイ・トゥルーを掲げた横断幕を掲出し、メッセージを広く発信しました。



日本陸上競技連盟は1980年に競技会ドーピング検査を、1997年より競技会外ドーピング検査を、さらに2005年からは血液検査を実施し、わが国の競技団体のなかでは最も古くから、最も積極的にアンチ・ドーピング活動を継続している競技団体です。アンチ・ドーピング教育にも重点をおき、陸上競技者のためのドーピング防止ハンドブック「クリーンアスリートをめざして」の発行、研修会やウェブサイトでの情報提供など、さまざまな事業を通して、クリーンアスリートを育てています。

JADAでは、プレイトゥルー・アウトリーチプログラムを広く展開しており、加盟競技団体が中心となり国内最高位の選手権大会などにおいて、わが国のスポーツ環境がフェアでクリーンであることを積極的に発信していくための活動を展開しています。